

飢餓のない世界を目指して

食糧支援 ニュースレター



World Food Programme

wfp.org/jp

MARCH 2013 | Vol.39

- 竹下景子国連WFP協会親善大使セネガルを訪問
- シリア緊急支援 さらに拡大
- 私たちの国連WFP支援
株式会社明光ネットワークジャパン
- WFPオフィシャルサポーター知花くららさん、エチオピアを訪問
- 「RED CUP CAMPAIGN」レポート
- 「WFPウォーク・ザ・ワールド for アフリカ」参加者募集
- スティーブン・アンダーソン WFP 国連世界食糧計画 日本事務所新代表 就任



小学校で子どもたちにたくさんの笑顔をもらいました。

生後13カ月の男の子。

給食の大切さを確認する竹下大使。

支援を受けたファトゥマタさんに昨年と今の状況を尋ねる竹下大使。

写真 関口照生

竹下景子国連 WFP 協会親善大使 セネガルを訪問

昨年西アフリカのサヘル地域で干ばつ、紛争、食糧価格高騰等の影響で食糧危機が発生し、およそ1500万人の人々が飢餓にさらされました。そうした中、国連WFPはセネガル、ブルキナファソ、チャド、マリ、ニジェール等の国々で命を守る食糧支援や栄養強化支援を実施しました。

この2月、国連WFP協会の竹下景子親善大使が、セネガルを訪問。同国では、不安定な降雨に加え、農作物の種や肥料の不足により2011年から2012年にかけて農村部が凶作に見舞われました。さらに食糧価格の高騰が事態を悪化させ、昨年、多くの人が食糧難に陥りました。これを受け、国連WFPは2012年4月から10月にかけて、最も被害を受けた地域の110万人を対象に2万6000トンの食糧と350万米ドル相当の食糧引換券を提供しました。また、5歳未満の子ども約7万3000人と妊娠中または授乳中の女性約1万9000人に栄養強化食品を配給しました。

栄養で守る子どもの未来

竹下大使が最初に訪れたのは、ジュールベル州の栄養支援センター。国連WFPはここで5歳未満の子ども達に栄養強化食品の「プランピー・サップ」を提供しています。竹下大使は生後13カ月の男の子を抱き食品を食べさせました。「生後半年くらいの大きさのこの子がおっぱいを吸うように一生懸命チュチュと吸う姿には、生命の源を見る思いがしま

した。」と竹下大使。国連WFPはここで、妊娠中または授乳中の女性への栄養支援も行っています。子ども達の健全な発育を助けるために、赤ちゃんがお母さんのお腹にいる時から栄養支援を始め、生まれた後までしっかりと継続する必要があります。

食べて学んで広がる未来

翌日は、ジュールベル州の小学校を訪問。国連WFPはここで幼児64人を含む803人の児童に給食を提供しています。週5日の昼食はトウモロコシや豆の水煮など、火曜日と木曜日の朝食はトウモロコシと大豆の粉で作ったお粥が提供されています。給食があるからこそ、親は子ども達を学校に通わせるようになり、子ども達も空腹が満たされ、集中して勉強することができます。2012年の修了率は98%だったそうです。竹下大使は、「この国の子ども達の元気の素は国連WFPの給食だったのですね。赤いカップのお粥を、皆で懸命に食べる子ども達には、生きる力が充ち満ちていました。」と語りました。

地域市場の活性化・農家の自立の後押し

また、学校近辺で食糧引換券の配布も行われていました。昨年の食糧危機を受けて実施された支援のひとつです。国連WFPは、現在も同州の乾燥地帯にある2000世帯に食糧引換券を提供しています。高齢者や母子家庭、極めて低収入の家庭等、最も脆弱な立場にある人々が対象です。この支援で人々が街中の店で食糧を購入できるようになるだけでなく、地元経済の活性化にも貢献しています。

そして、次の日には、昨年食糧危機に見舞われた地域を訪問。干ばつの影響で穀物の生産高が50%以上減少し、人々は出稼ぎに行くなどして、深刻な食糧難に何とか対処しようとしたそうです。支援を受けた女性、ファトゥマタ・タンドウさんは、「食糧配給券でお米、砂糖、塩などを購入することができました。大変な時には、一日中何も食べられない時もありました。以前と比べると状況は良くなり、元気に仕事もできるようになりました。」と伝えてくれました。

国連 WFP では皆様からの継続した支援を必要としています！



支援を通じて農業を学び、実践し、自活していく女性たち。

写真 関口照生

日本が応援するセネガルの今と未来

視察の最終日には、ファティック州に行き、国連WFPが2010年から2012年の間に

日本の農林水産省と協働した、「アフリカにおける稲作等普及事業」を視察。これは、農地をもちながらそれを活かさずにいる農民に対し、農地の開墾、稲作、野菜栽培の技術を提供し、自給自足を達成できるように支援する事業で、農作業などに参加すると国連WFPが食糧を提供する仕組みになっています。竹下大使は、本支援によって建設された塩害対策のための土手、洪水の際に土壌が流れ落ちるのを防ぐための石垣、農園などを視察しました。また住

民より、本支援のおかげで収穫量が安定し、生活の糧が得られるようになったとの報告や、日本のこれまでの支援への感謝が伝えられました。竹下大使は、「セネガルと日本は、米が主食の国同士。食糧の安定的確保と、自力で貧困を克服することを目指す支援に日本の協力がしっかりと活かされていることを確認することができ、とてもうれしく思います。」と伝え、お話しの後には、住民が踊りを披露してくれて、温かい交流の場を持つことができました。

竹下景子国連WFP協会親善大使からのメッセージ

セネガルを訪れ、多くの人と交流する中で、私は、まず自分が一歩踏み出すこと、それによって救える生命があることを、その大切さを改めて知りました。それと同時に、支援は継続することが何より重要と実感しました。セネガルでは、皆が一致団結して困難に立ち向かっていく明るく強いパワーを感じました。皆さんにセネガルやアフリカの現実をぜひ知って欲しいと思います。想像力を駆使して理解していただきたいです。国連WFPが支援活動を続けていくには、皆様のご理解とご協力が不可欠です。日本も含め、世界中の子ども達の今と未来のために、皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。



写真 関口照生

シリア緊急支援 さらに拡大



国連WFPが配った食用油を受け取るシリアの子どもたち。

WFP / Abeer Etefa

国連WFPはこれまで、戦闘が続くシリア国内の150万人に緊急食糧支援を行ってきました。今後は活動をさらに拡大し、対象人数を4月までに250万人に増やす予定です。配給する食糧には、米、挽き割り小麦、パスタ、植物油、レンズ豆、食塩、砂糖、豆の缶詰、そしてパンまたは小麦粉が含まれています。シリア国内では、反政府勢力の掌握地域と政府の掌握地域の両方で支援を行っており、激戦地でも戦闘の合間を縫って、身動きが取れなくなっている

市民に食糧を届けています。戦闘の中で食糧を届けることは極めて難しい状況ですが、国連WFPおよびパートナー機関であるシリア赤新月社 (SARC) は、地元社会のリーダーたちなどすべての関係者と調整を図り、食糧が安全に戦線を超え、困窮している家庭に確実に届くよう努めています。さらに、シリア難民が増え続けているエジプト、イラク、ヨルダン、レバノン、トルコといった周辺国でも活動を拡げ、6月までに75万5000人の難民に食糧支援を届ける予定です。

国連 WFP では皆様からの継続した支援を必要としています！

私たちの国連WFP支援 株式会社明光ネットワークジャパン

個別指導塾「明光義塾」を全国展開する株式会社明光ネットワークジャパンでは、全国の「明光義塾」で生徒が使用する中学生向けオリジナル教材や、明光義塾オリジナルノートの売上げの一部を国連WFPに寄付し、学校給食プログラムを支援しています。

これは、教育事業を通じた人づくりを目指している同社が国連WFPの学校給食プログラムの主旨に賛同し、世界中の一人でも多くの子どもたちが学校で給食を食べ、教育を受けられるようにと実施しているものです。2012年8月には第1回目となる寄付金、総額10,980,000円が国連WFPに寄付されました。

同社はまた、全国の「明光義塾」で国連WFPの学校給食プログラムを紹介する冊子を生徒に配布したり、教室に学校給食プログラムと同社の支援について、紹介するポスターを掲示し、日本の子どもたちが世界の子どもたちの状況を理解し、思いやり

の気持ちを育むことができるような支援活動を展開しています。

ご担当の総務部松尾克久さんは、「明光義塾は“個別指導による自立学習を通じて、創造力豊かで自立心に富んだ21世紀社会の人材を育成する”を教育理念として掲げています。これは、日本の子供たちだけでなく途上国の子供たちも同様だと考えています。国連WFPの学校給食プログラムは、ただ単に食糧を支援するだけでなく、子供たちの教育機会の拡大と自立を支援する素晴らしい取り組みです。今後も当社はこの学校給食プログラムを支援していきたいと思っています。」と話しています。

世界の子どもたちに一杯の給食を！
国連WFPでは2012年より、WFP国際緊急食糧計画の「学校給食プログラム」に賛同し、日本の一部を寄付し、世界の子どもたちの健康と成長を支援する活動を行っています。

現在、世界では2000万人の学齢期の子供が学校に通っていません。660万人の小学生が空腹のまま学校に通っています。食糧不足に苦しむ人々を支援する国際機関であるWFP国際緊急食糧計画は、そうした子どもたちに向けて、途上国の学校で給食を提供する「学校給食プログラム」の活動をしています。

学校で給食が提供されることで、子どもたちは空腹をしのいで学習に集中できるようになります。また、飽いて食べきれない子どもたちも学校に通うきっかけを得ることで、健康も向上します。食糧の不足となる国の状況により、あるいは女の子や貧困な女性に偏りがある国に選ばれる子どもは、きちんと学校に通えず、教育を受ける機会を失ってしまうという深刻な結果を招く恐れがあります。

WFPの「学校給食プログラム」は、一時的な食糧を供給するのではなく、5年未満の間に一人の子どもに3年分の給食（持ち帰り食糧含む）を提供することができます。

明光義塾では、この活動を支援するために、明光義塾オリジナル教材の一部をWFPの「学校給食プログラム」に寄付しています。

WFP 国際緊急食糧計画 日本及び韓国代表 「レディット・サレヒン」さんからのメッセージ

WFPは世界で最も信頼される国際機関であり、国連の機関として、世界中の子どもたちの健康と成長を支援する活動を行っています。WFPの「学校給食プログラム」は、途上国の学校で給食を提供する活動です。WFPの「学校給食プログラム」は、途上国の学校で給食を提供する活動です。WFPの「学校給食プログラム」は、途上国の学校で給食を提供する活動です。

個別指導の明光義塾

教室に掲示されているポスター



給食の配膳を手伝う知花さん。

メモを取りながら説明を受ける知花さん。

給食の調理のお手伝い。

WFPオフィシャルサポーターの知花くららさんが2月、エチオピアを訪問し、国連WFPの母子栄養支援プログラムと学校給食プログラムを視察しました。国連WFPはエチオピアにおいて、干ばつ被災者や難民、栄養不足の母子や、学童など約700万人を対象に食糧支援を行っています。今回、知花さんが訪れたのは、首都アディスアベバから約300キロ北部にある、ラリベラ近郊。1日目は母子栄養支援が行われていた保健所を訪れました。

エチオピアでは10人にひとりの赤ちゃんが、5歳の誕生日を迎える前に亡くなり、その6割近くは、栄養不良が一因となっています。国連WFPとユニセフは、同国政府と連携し、中程度の栄養不良の子どもや、妊婦、授乳中の母親を対象として、政府の国家栄養計画に沿う形で、栄養支援を実施しています。2012年には50万人あまりに、トウモロコシと大豆の栄養強化ブレンド粉と植物油を配布しました。

知花さんは保健所で、食糧を受け取りにやってきた母親の一人、アスレフ・シサイさん(30)に「お子さんの栄養状態に変化はありましたか？」など質問。1歳半になる息子メルカム・カサ君を抱いたアスレフさんは、「以前は子どもは体調が悪く体重も増えませんでした。でも、ここに来るようになってからは健康状態がチェックできるようになり、もらった食糧を教わった方法で調理して食べさせるようになってから、健康状態がよくなりました。」と話しました。

ここでは、食糧配給だけでなく、毎月の健診、健康相談、母親を対象とする栄養教育なども行っています。知花さんは栄養教育を受ける母親たちの姿を熱心に見守っていま

した。その後、知花さんは、受け取った食糧をどのように調理するのか見るために、アスレフさんの家を訪れました。夫は遠く離れた町に出稼ぎに出ていて、帰れるのは半年に一度。その留守を預り子どもたちを一生懸命育てている姿に、知花さんは「母親はすごい」と感心していました。

2日目は小学校を訪れ、学校給食の現場を視察しました。知花さんが小学校に到着すると、子どもたちは手をたたいて訪問を歓迎し、ダンスを披露してくれました。

エチオピアの成人識字率は30%。エチオピア政府は2015年までに初等教育の完全普及を目指しています。現在の小学生の就学率は84%で、国連WFPは、牧畜地帯など食糧難に陥りがちで、就学率が低い地域の小学校で、およそ65万人を対象に、温かい給食を提供しています。給食は、トウモロコシと大豆の粉などで作られる栄養たっぷりのお粥です。原材料はエチオピア産。地産地消の給食です。

知花さんは校長先生から説明を受けると、調理場所となっている小屋の中で地元の女性二人を手伝い、一緒に給食を作りまし

た。10時になると子どもたちが給食をもらいに集まってきます。知花さんは配膳のお手伝いもし、子どもたちは、3~4人ごとに一皿ずつ盛り付けられたお粥を、仲良く分け合っ

て食べていました。知花さんは給食を食べる子どもたちの隣に座り、「給食おいしい?」「夢は何?」などと質問。子どもたちは「うん、おいしい」、「先生になりたい」などと目を輝かせて答えていました。

「国連WFPの学校給食に恋をしました」という知花さん。「エチオピアには干ばつなどがあって人々のおかれた環境は厳しいけれども、国連WFPの学校給食によって、より多くの子どもたちが学校に行けるようになってきました。また、自分たちが幼いころ学校に行くことがかなわなかった両親も、自分たちの子どもが学校に行くことを奨励しています。子どもたちは学校に行くことで勉強をする機会が与えられ、たくさんの将来への夢を持つことができるようになってきました。」と知花さん。「学校の校庭を駆け回る子どもたちの姿を見ていて、ここには希望がある、と強く思いました。」と締めくくられました。

国連WFPでは「皆さんの力で、給食が届く、世界がより良くなっていく。」を願いとして、「RED CUP CAMPAIGN」を展開しています。2013年1月以降、新たにキャンペーンに参加していただいた企業をご紹介します。1人でも多くの方々がこの取り組みをサポートして下さることが、1人でも多くの子どもの栄養たっぷりの給食を届けるという目標につながります。多くの方々にキャンペーンについて知っていただき、支援の輪が広がることを願っています。

これまでに参加して下さった企業、および参加中の企業の事例は www.redcup.jp でご覧いただけます。

株式会社真誠

2013年1月より12月末まで順次発売されている「煎りたて一番」シリーズ、「揚げたて一番」シリーズの売り上げの一部がレッドカップキャンペーンを通じて国連WFPに寄付されます。



©真誠

株式会社ロッテ

2013年1月より3月末まで順次発売されている「ガーナリップル」1パックお買い上げごとに2円がレッドカップキャンペーンを通じて国連WFPに寄付されます。



©ロッテ

「WFPウォーク・ザ・ワールド for アフリカ」参加者募集

国連WFPは、5月19日(日)、「WFPウォーク・ザ・ワールド for アフリカ」を横浜みなとみらい地区で開催します。WFPウォーク・ザ・ワールドは子どもたちの飢餓をなくすためのチャリティーウォーク。本年度は横浜市で開催される第5回アフリカ開発会議(TICAD V)に向けて、アフリカの子どもたちを応援するために実施します。参加費の一部は国連WFPのアフリカにおける学校給食プログラムに役立てられます。ぜひ、ご家族・ご友人を誘って参加ください。



【実施概要】 詳細は www.redcup.jp/wtw2013 をご覧ください。

日時 2013年5月19日(日) 開会式 9:30 スタート時間 10km 10:00 / 5km 10:30
場所 横浜みなとみらい地区 (スタート会場:臨港パーク)
申込締切 5月7日(火)

【お申込み】

- ①インターネットで ※携帯電話可 www.sportsentry.ne.jp
 スポーツエントリーホームページ内
 ※お申込みには、参加費の他にスポーツエントリー利用料がかかります。
- ②お電話で ※通話料は利用者負担となります。
0570-550-846 スポーツエントリー内
 (受付時間:平日10:00~17:30)

【お問い合わせ】

0120-711-951
 (受付時間:平日10:00~17:30)
 スポーツエントリー内

スティーブン・アンダーソン WFP 国連世界食糧計画 日本事務所新代表 就任

今年1月、モハメッド・サレヒーンWFP 国連世界食糧計画 日本事務所前代表が35年間の国連WFPでの継続勤務を終え退職しました。それに伴い、スティーブン・アンダーソンが新代表に就任しました。

アンダーソンはこれまで、国連WFPスーダン、エチオピア、フィリピン事務所やローマ本部等で様々な仕事をしてきました。短期でケニアと南アフリカでの支援にも携わり、現場での活動経験が豊富です。

アメリカ国籍のアンダーソンですが、家庭はややユニークです。曾祖父・祖父・父は全員アメリカ国籍でありながら、仕事のためアフリカ、中東、アジアで暮らしました。彼自身もケニアで生まれ、ケニ

ア、ウガンダ、南部スーダンで育つうちに、開発・人道支援の仕事をしたと願うようになりました。1989年に国連ボランティアとして国連WFPスーダン事務所です仕事を始めたアンダーソンは、京都府宇治市から看護教育職の青年海外協力隊員として派遣されていた藤井かおりさんという日本人女性と出会います。二人は1993年に京都で結婚、3人の子どもに恵まれました。今回、日本での勤務となり、さらに日本文化を知りたいと願っています。

国連WFPでの長年の勤務で最も印象に残っていることは、紛争でひどい飢餓に襲われたスーダンでの支援、農地改善を通じて自立と開発を促すエチオピアでの参加型プロジェクト、最近では

フィリピンを襲った台風24号に際しての緊急支援等です。これらの活動には、日本政府および国民の皆様からいつも多大なる支援が寄せられていて、感謝の念を抱いていたそうです。皆様、アンダーソンをどうぞよろしくお願い致します。



アンダーソン新代表(中央) フィリピンの支援現場にて。

国連 WFP では皆様からの継続した支援を必要としています！

～ WFP マンスリー募金にご協力ください～

毎月1,000円からの定額引落しによる継続的なご寄付の方法です。

自然災害や紛争発生時の緊急食糧支援、ならびに貧困に苦しむ子どもたちが飢餓ることなく健全に成長するための力強い支えとなります。

例えば、**毎月 3,000円** のご寄付を1年間で (1日あたり約100円)

栄養失調の子ども3人に栄養強化食品を1カ月提供できます。



寄付方法

- ✓ クレジットカードで
- ✓ 銀行またはゆうちょ銀行から
- ✓ 楽天銀行から

例えば、**毎月 5,000円** のご寄付を1年間で (1日あたり約167円)

自然災害や紛争の被災者600人に栄養強化ビスケットを届けることができます。



※国連WFPへのご寄付は、寄付金控除など税制上の優遇措置を受けられます。

お申込み、
お問い合わせは
こちらから ▶▶▶



0120-496-819

受付時間9:00~18:00(年末年始を除く毎日)
 携帯電話・PHSからもつながります

インターネットで www.wfp.org/jp

携帯電話で

モバイルサイトは
 こちらのQRコード
 から ▶▶▶▶▶▶

